

令和3年11月29日（月）  
令和3年度 第2回  
大阪府河川構造物等審議会  
三大水門景観検討部会

資 料

---

---

# 安治川水門の景観設計において 配慮すべき事項について

---

---

# 新安治川水門の景観に関するこれまでの検討経過

## 【諮問】 改築する三大水門の景観に関する事項について (R2. 7. 2)

1. 改築する三大水門の景観検討方針について
2. 木津川水門の景観設計において配慮すべき事項について
3. 安治川水門の景観設計において配慮すべき事項について



## 【答申】 改築する三大水門の景観に関する事項について (R3. 1. 29)

1. 改築する三大水門の景観検討方針について

(答申抜粋)

≪ 景観方針・検討の進め方 (安治川水門) ≫

### ■ 景観方針

- ・ 安全・安心のシンボル (水都大阪の再生に資する取組やまちづくり計画も考慮)

### ■ 検討の進め方

- ・ 新水門に期待する付加価値や水門周辺に期待する姿や景観などについて、アイデアコンペの開催を検討するなど、**広くアイデアを募集する。**
- ・ アイデア募集の結果も参考に本部会において、**景観設計上のコンセプト及び、配慮すべき事項を決定する**

2. 木津川水門の景観設計において配慮すべき事項について



## 令和3年度 第1回 大阪府河川構造物等審議会 三大水門景観検討部会 (R3. 6. 21)

### ■ 安治川水門の景観検討の進め方について審議を実施

- ・ 新水門の景観などについて広くアイデアを募集するため、**アイデアコンペによりアイデア募集を実施**
- ・ **アイデアコンペの応募作品をふまえ、新安治川水門の景観設計上のコンセプトを決定する**



## 新安治川水門アイデアコンペを開催 (応募期間 R3. 7. 16 ~ R3. 9. 7)

### ■ 実施スケジュール

- |              |                    |
|--------------|--------------------|
| (R3. 9. 29)  | 1次審査通過者発表          |
| (R3. 10. 18) | 2次審査 (公開プレゼンテーション) |
| (R3. 11. 25) | 結果発表               |

# 新安治川水門アイデアコンペ実施概要

## ◆開催目的

新たに建設する安治川水門に期待する付加価値や水門周辺に期待する姿や景観などについて、広くアイデアを募集し、**新安治川水門の景観設計上のコンセプトおよび配慮すべき事項の参考とする。**

## ◆テーマ（対象エリア）

（テーマ）

「新安治川水門と周辺地域および河川軸」

（対象エリア）

- ① 新安治川水門および管理所敷地
- ② 弁天町周辺エリア  
（弁天埠頭・オーク弁天商店街等）
- ③ 安治川水域（中之島～夢洲）



## ◆概要

参加登録数 : 12組

**提案書提出 : 9組**

二次審査対象 : 6組

→（最優秀賞：1作品、優秀賞：1作品 奨励賞：3作品、審査員特別賞：1作品）

## ◆応募作品（アイデア）の活用

「水門デザイン」に関するアイデア

水門デザインのヒントとして活用

**「安治川水門の景観設計において配慮すべき事項」  
の参考とする ⇒ 【本検討部会で審議】**

（参考）

「まちづくり」に関するアイデア

まちづくりへのヒントとして活用

・関係市区のまちづくりや賑わいづくり、防災関係部局へ、本コンペで提案のあったアイデアについて活用いただけるよう情報提供を実施。

# アイデアコンペにおいて提案のあった事項

・アイデアコンペでは『舟運・水都大阪を考慮したアイデア』『防災機能・啓発等を考慮したアイデア』『現水門の継承を考慮したアイデア』に関する提案が多く挙げられた。

## 舟運・水都大阪を考慮したアイデア

1. 大阪市内とベイエリアをつなぐ中継地点・拠点とするような提案 (8作品)
2. 夜間景観に関する提案 (4作品)

3. 土木構造物 (治水施設) としての安心感や力強さに関する提案 (5作品)
4. 地域の防災教育や眺望スペースとしての活用に関する提案 (8作品)

## 防災機能・啓発を考慮したアイデア

5. アーチ形状・色の継承に関する提案 (9作品)

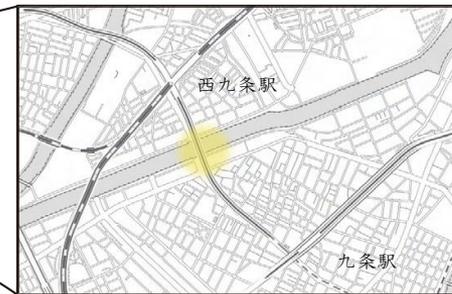
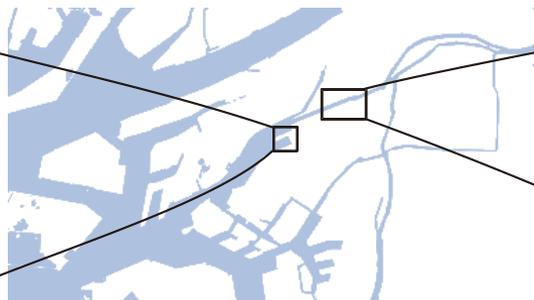
## 現水門の継承を考慮したアイデア

アイデア毎にコンペでの提案内容を整理し、配慮すべき事項を抽出

# 1. 大阪市内とベイエリアをつなぐ中継地点・拠点とするような提案

## (提案概要) 作品2：守り、干渉する水門

・舟運の活性化等を促すため、中之島~ベイエリアまでの動線上に「リバーターミナル」を整備。



1. 弁天埠頭ターミナル

ベイエリアと弁天町を繋ぐ大規模ターミナル



2. 安治川水門ターミナル

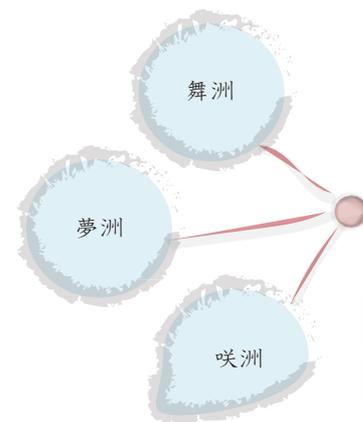
弁天町と中ノ島を繋ぐ小～中規模ターミナル



市内

3. 九条ターミナル

弁天町の2つに加え、西九条駅と九条駅の線上に小～中規模のリバーターミナルを整備します。西九条駅や九条駅は鉄道のターミナルになっており、利用客の増加が見込まれます。また、中之島と弁天町の間地点に位置し、このエリアにリバーターミナルを整備することで、舟運がより活性化すると考えられます。



# 1. 大阪市内とベイエリアをつなぐ中継地点・拠点とするような提案

## (提案概要) 作品4：帰ってきた「まちみなと」 Benten Biennale

- ・安治川水門はこれまで、「川の玄関口」としてのイメージを作ってきた。
- ・舟運のネットワークにより、水都大阪の魅力に広がりをもたすため、弁天埠頭に船着き場を整備することで、**都心部とベイエリアを結ぶ中継地点**とする。



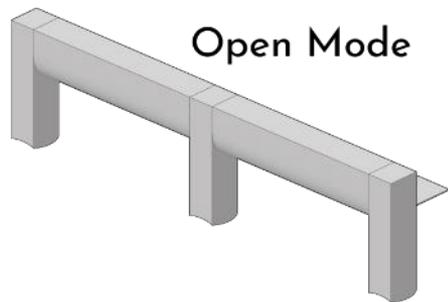
# 1. 大阪市内とベイエリアをつなぐ中継地点・拠点とするような提案

## (提案概要) 作品8 : BENTEN 2050

- ・「水辺空間のシンボル」として機能する水門かつ、「水都大阪のゲート」となるような水門。



## 02 | Daily Mode ⇔ Disaster Mode 平常時・水都大阪のゲートとなる水門



国道 43 号

Project Site 01  
新水門建設予定地

現安治川水門



Project Site 02  
水門管理所敷地提案

水門管理所を国道 43 号線の  
高架下空間に提案します  
詳細は [Waterfront](#) の章にて

# 1. 大阪市内とベイエリアをつなぐ中継地点・拠点とするような提案

## (提案概要) 作品11: 海の手門

- ・ 安治川が大阪城に繋がることから、安治川水門を川からまちへ至る入口とし、水門を「海の手門」と位置づけ。
- ・ また、川を遡る時と下る時、往還で違った感覚があることから、水門や堤防で「往還で異なった印象」を与える。

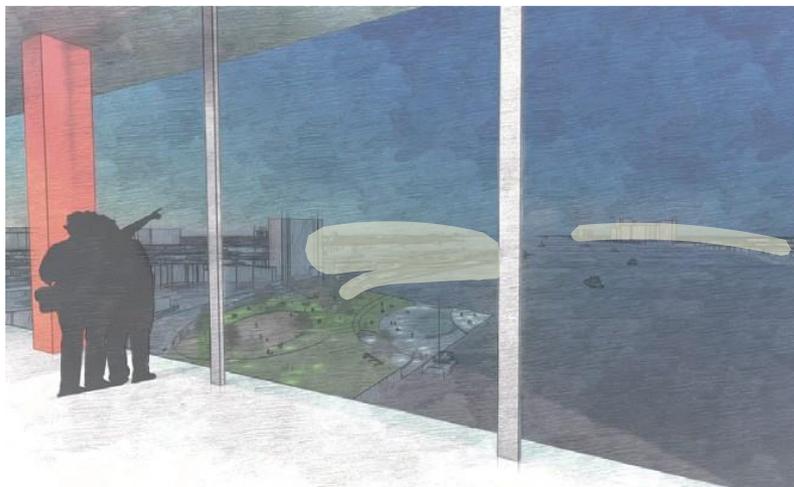


## 2. 夜間景観に関する提案

### (提案概要) 作品2：守り、干渉する水門

- ・通常時は、ライトアップすることで、「夜間の港空間のランドマーク」となる。
- ・夜間に災害が来た際も周囲に知らせる、「灯台のような役割」も果たす。

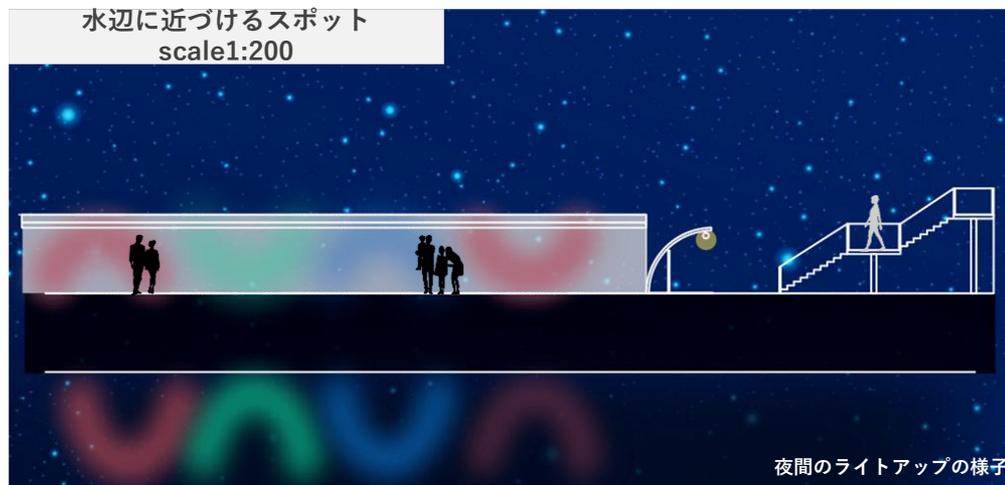
通常時は、ライトアップすることで、夜間の港空間のランドマークになります。また、夜間に災害が来た際も周囲に知らせる、灯台のような役割も果たします。



夜間の眺望

### (提案概要) 作品7：NEW GATE ベイエリアと都心を結ぶ場所

- ・一定区間毎に水辺に近づけるスポットを設け、ライトアップによる夜間景観を楽しむことができるよう護岸のライトアップを実施。



## 2. 夜間景観に関する提案

### (提案概要) 作品11：海の手門

- ・「昼と夜の表情」を提案。照明の点灯方法（上流側下流側同時、個別の点灯など）により表情を変える。
- ・全点灯、照明室の点灯、連絡歩廊の点灯、門灯の点灯等組み合わせで、様々なシーンの演出が可能となる。

#### 安治川水門：「海の手門」昼と夜の表情

5

外に対しては堅牢に、内に対しては開かれ、二面性のファサードを持つデザインとしました

下流側

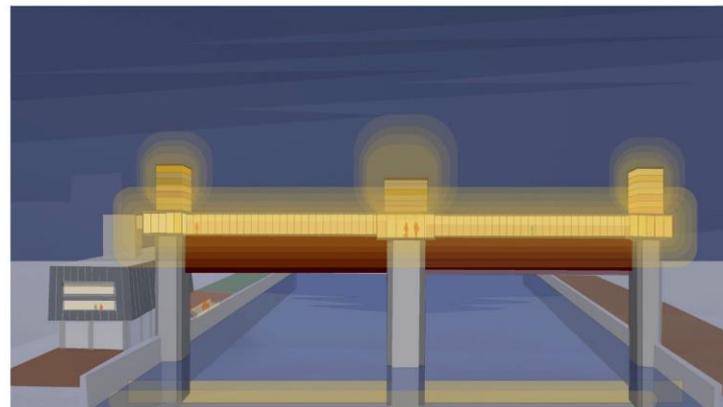
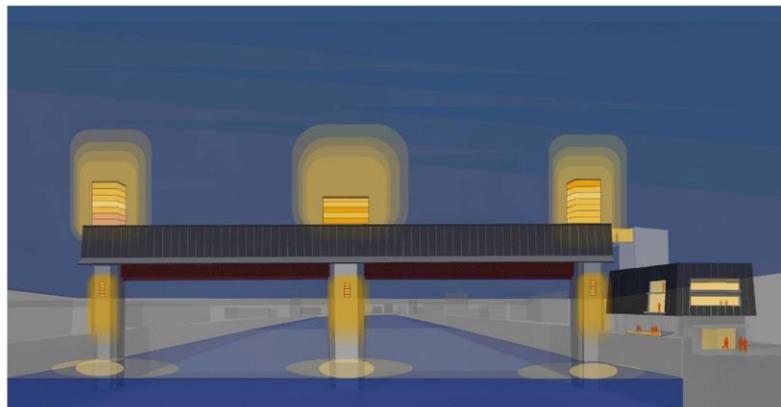


入港時、下流側から見る  
堅牢な表情で、大阪のまちを守ります。

上流側



出港時、上流側から見る  
二段式ローラーゲートは巻揚時の見付け面積が小さく閉塞感の解消が出来ます。



照明の点灯によって、上流側下流側同時、あるいは個別の点灯でその表情が変わります。  
全点灯、照明室の点灯、連絡歩廊の点灯、門灯の点灯等、組み合わせで、様々なシーンで演出が可能となります。

## 2. 夜間景観に関する提案

### (提案概要) 作品11：海の手門

- ・一定の寸法で堤体にリズムを与え、「上りと下り、夜と昼で景色が変わる護岸」とする。

#### 安治川水域 3：護岸デザイン B区域

13

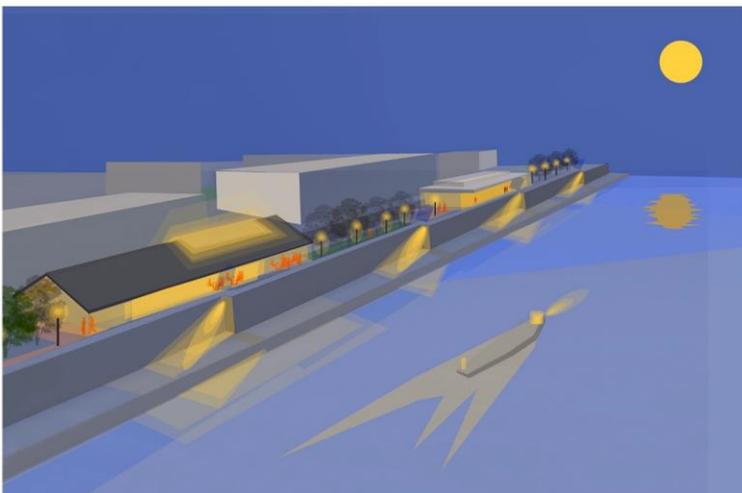
一定の寸法で堤体にリズムを与え、上りと下り、夜と昼で景色が変わる護岸



下流から上流を見る：  
川の流れにさからうような堤防の重ね、下る時とは違った景色が読み取れます。



上流から下流を見る：  
川の流れにさからわない堤防の重ね、堤体の重ね毎に設置する太陽光発電パネルは帆船の帆をイメージしました。



下流から上流を見る：  
川に流れを遡る時、あかりは逆光に見えます。



上流から下流を見る：  
川に流れに素直な時、あかりは順光に見えます。

## 《舟運を考慮したアイデアのまとめ》

- ・大阪市内とベイエリアをつなぐ中継地点・拠点とするような提案
- ・夜間景観に関する提案

- 大阪市内とベイエリアをつなぐ航路の中間に安治川水門が位置していることから、「**リバーターミナル**」の整備や「**海の手門**」「**水都大阪のゲート**」「**川の玄関口**」としての位置づける提案が見られた。
- 舟運に着目し、上流から下流あるいは下流から上流という、「**視点の方向の違いによりデザイン**の方向性を変える提案」も見られた。
- 安治川では、舟運等による大阪市内とベイエリアをつなぐ人の流れが、夜間でも想定されることから「**昼と夜で表情を変える**」ことやライトアップによる「**夜間の港空間のランドマーク**」「**灯台のような役割**」など夜間景観に係る提案も見られた。

## 《景観設計において配慮すべき事項》

- ① 大阪市内エリアとベイエリアをつなぐ中継地点や拠点として、期待されていることを踏まえ、**水都大阪の玄関口やシンボルとなるような景観となるよう配慮**すること。
- ② 舟運の活性化が期待されることを踏まえ、**上下流方向など視点の違いによる景観の印象の違いに配慮**すること。また、夜間でも船舶による人の動きがあることが予想されるため、**夜間景観や昼と夜の景観の違いについても配慮**すること。

### 3. 土木構造物（治水施設）としての安心感や力強さに関する提案

#### （提案概要） 作品2：守り、干渉する水門

- ・大規模で、見た目から安心感が得られるよう 3本柱のローラーゲート方式を提案。
- ・頭部構造を旧水門がつつみこむような楕円とし、安心感を与えるような形状を提案。



新安治川水門デザイン

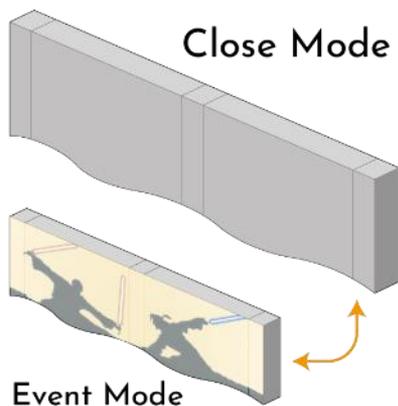
### 3. 土木構造物（治水施設）としての安心感や力強さに関する提案

#### （提案概要）作品8：BENTEN 2050

- ・災害時には「水都大阪の砦」となるような水門を提案。



## 03 | Daily Mode ⇔ Disaster Mode 災害時 / 試運転時・水都大阪の砦となる水門



### 「映える水門」は人々を呼び込む

地域への経済的波及効果を期待するにあたっては観光客などの「動員」が不可欠であると考えます。月一度の試運転（閉門）が「SNS 映えスポット」となるようなブランディングを提案します。

### 防災フロートと連携して防災の拠点を形成

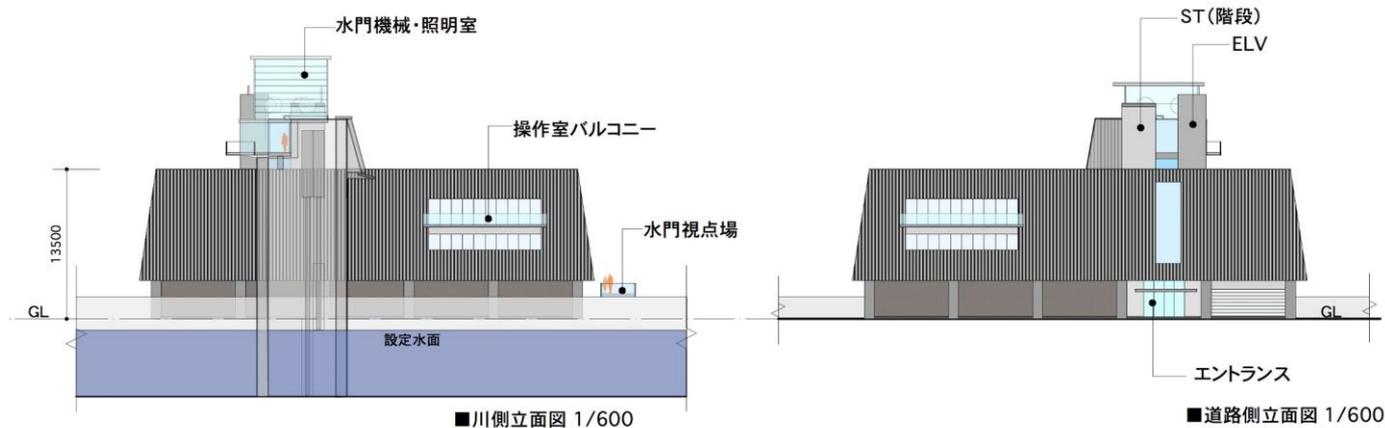
現在ユニバーサルシティ側には防災フロートが接岸しフェリー乗り場として日常利用されていますが、構造的な問題から東日本大震災時に外洋航行が不可能でした。

防災フロートを水門と連携して常時稼働・移動させることで、常に安全に利用可能な状態を保ちつつ、河川上でのより様々なイベント実施や、災害時には沿岸地域への物資輸送に利用することを提案します。

### 3. 土木構造物（治水施設）としての安心感や力強さに関する提案

#### （提案概要） 作品11：海の手門

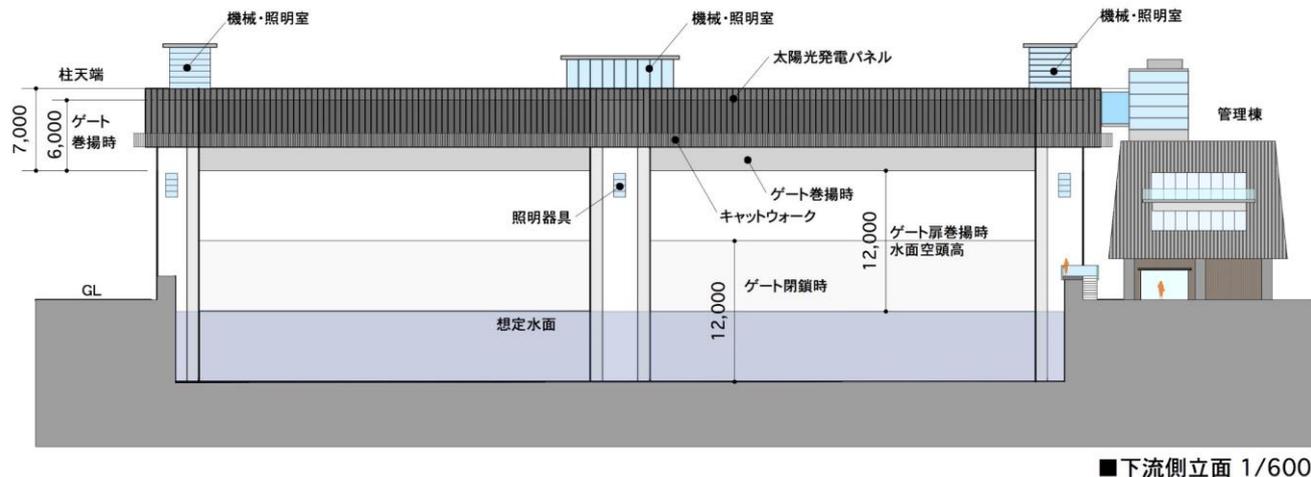
- ・ 水に対する防備である水門と、大阪城の敵を寄せ付けない防護構造とに通じるものがあると考え、「堅牢な表情で大阪のまちを守る」デザインとし管理棟は門に対峙する城のイメージとする。



### 3. 土木構造物（治水施設）としての安心感や力強さに関する提案

- 土木構造物（治水施設）としての安心感や力強さの提案がある一方、遮蔽物とならないよう配慮した二段式ローラーゲートの提案もみられた。

#### 【作品11：海の手門】



#### (提案概要)

二段式ローラーゲートとし、水門自体の高さを抑えると共に、大きな遮蔽物とならない形式を提案

#### 【作品7：NEW GATE ベイエリアと都心を結ぶ場所】



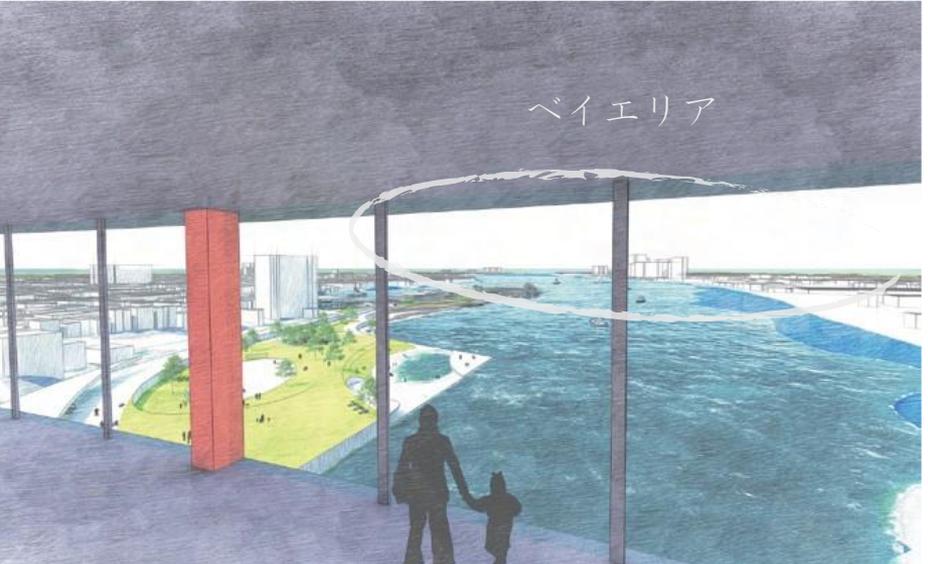
#### (提案概要)

水門が高くなると景観性にすぐれないため、ダブルゲート構造にし、高さを抑える提案

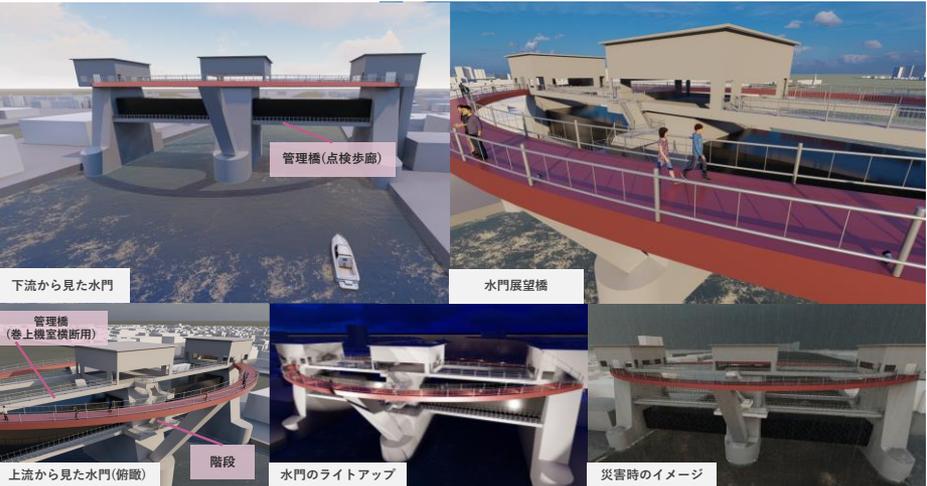
# 4. 地域の防災教育や眺望スペースとしての活用に関する提案

## (提案概要) 作品2：守り、干渉する、水門

- ・機械室をガラス張りにし、「社会科見学等で活用」また、上屋は避難所としてだけでなく、「展望室」としても活用
- ・「展望台」として活用することで、大阪湾一帯を一望することや、工場夜景、ベイエリアの夜景を眺めることができる。



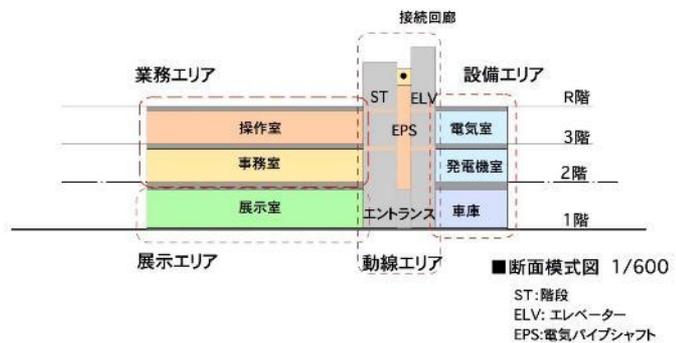
## (提案概要) 作品7：NEW GATE ベイエリアと都心部を結ぶ場所「展望スペース」として活用出来る場の整備



## (提案概要) 作品11：海の大水門

管理棟内に「展示室機能」を持たせ、役割周知の場として活用

動線エリアを中心に左翼を業務エリア、右翼を設備エリアに計画し、**明確に分離**しました。  
 業務エリアを2階以上に配置することで**水害に備えます**。  
 1階には**展示室**を設け、この水門が地域資源であること、水門の役割を周知させます。



## 《防災機能・啓発等を考慮したアイデアのまとめ》

- ・ 土木構造物（治水施設）としての安心感や力強さに関する提案
- ・ 地域の防災教育や眺望スペースとしての活用に関する提案

- 津波や高潮といった災害から府民を守るという役割から、「**安心感があるデザイン**」や「**水都大阪の砦**」「**大阪を防護する堅牢な表情**」といったコンセプトがあるなど、土木構造物として果たすべき役割（安心感や力強さ）をデザインからも伝えるような提案が見られる。
- また、管理棟、水門を単体でデザインするのではなく、「**一体のデザイン**」とすることでより安定感のある印象を伝えるような提案も見られた。
- 一方、景観性への配慮から、新水門が「**遮蔽物とならないような配慮**」に関する提案が見られた。
- 「**防災教育の場として活用**」するための展示・展望スペースの整備に関する提案が複数見られた。

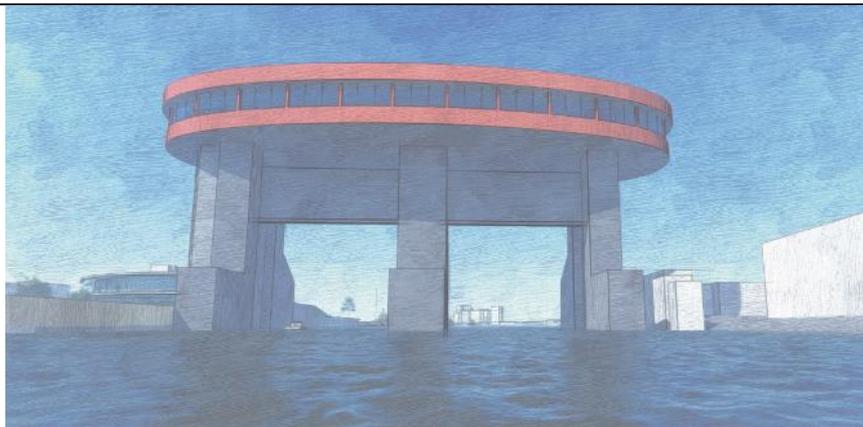
## 《景観設計において配慮すべき事項》

- ③ 津波・高潮から街を守る役割を踏まえ、土木構造物として果たすべき役割（安心感や力強さ）が伝わるような景観となるよう配慮すること。 また水門単体でデザインするのではなく、管理棟も含めたデザインとなるよう配慮すること。
- ④ 新安治川水門は、現水門のアーチ型水門と比較すると、景観性（見通し）が優れないことを踏まえ、遮蔽感を軽減するよう配慮すること。
- ⑤ 津波や高潮といった災害、水門の果たす役割や機能を伝える防災教育の場としての活用にも配慮すること。

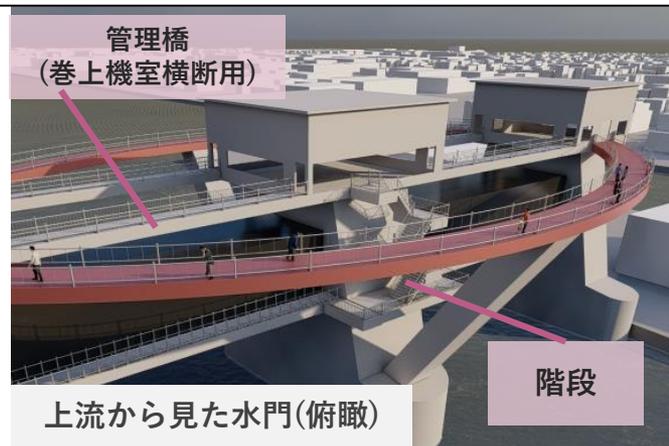
# 5. アーチ形状・色の継承に関する提案

- ・旧水門の「**アーチをイメージした構造（上部構造、展望橋）**」が提案された。提案された構造部では、旧水門の継承をイメージした**赤色**が使用されている。
- ・また、**現水門を現地に保存する提案**や、**現水門を活用した公園整備**なども提案されている。

**(提案概要) 作品2：守り、干渉する、水門**  
旧水門のアーチと赤色をイメージした上部構造



**(提案概要) 作品7：NEW GATE ベイエリアと都心部を結ぶ場所**  
旧水門のアーチと赤色をイメージした展望橋



**(提案概要) 作品4：帰ってきた「まちみなと」 Benten Biennale**  
旧安治川水門の保存



**(提案概要) 作品11：海の手門**  
旧水門のアーチを利用した公園整備の提案



## 《現水門の継承に関するアイデアのまとめ》

### ・ アーチ形状・色の継承に関する提案

- 現水門のアーチ型形状が無くなってしまったため、現水門の存在感やイメージを継承するよう「**アーチをイメージした構造**」「**色の継承**」に関する提案が見られた。



## 《景観設計において配慮すべき事項》

- ⑥ 現水門のアーチ型形状を新水門本体で継承することは困難だが、**新水門を含む周辺エリアにおいて、その存在感やイメージを継承できるよう配慮すること。**

## 【景観設計における基本的な考え方（コンセプト）】

### 三大水門の景観設計における基本的な考え方

- 三大水門は、昭和45年に完成して以来、流域の安全・安心に寄与している重要な治水施設であるだけでなく、国内でも珍しい形式であることもあり、大阪ミュージアムや大阪市の都市景観資源に登録されており、地域を象徴する施設でもある。
- 新水門は、高潮に対する防御のみならず、津波による被害も防ぐことにより住民の安全・安心を確保する重要な治水施設であり、長期間に亘って存在するため、後世に継承される優れたデザインを有し、現水門と同様に地域に親しまれる「安全・安心のシンボル」となるよう配慮すべきである。
- また、ベイエリアと大阪の中心市街地を結ぶ中間に位置することから、新たな都市の魅力的なスポットとなるよう配慮する必要がある。

※木津川水門の景観設計において配慮すべき事項（R3.1.29と共通）

## 【景観設計において配慮すべき事項】

安治川水門は、高潮・津波を防御する重要な施設であるため、要求される性能や機能を確保したうえで、地域に親しまれる「安全・安心のシンボル」となるよう、以下の事項に配慮すべきである。

- ① 大阪市内エリアとベイエリアをつなぐ中継地点や拠点として、期待されていることを踏まえ、水都大阪の玄関口やシンボルとなるような景観となるよう配慮すること。
- ② 舟運の活性化が期待されることを踏まえ、上下流方向など視点の違いによる景観の印象の違いに配慮すること。また、夜間でも船舶による人の動きがあることが予想されるため、夜間景観や昼と夜の景観の違いについても配慮すること。
- ③ 津波・高潮から街を守る役割を踏まえ、土木構造物として果たすべき役割（安心感や力強さ）が伝わるような景観となるよう配慮すること。また水門単体でデザインするのではなく、管理棟も含めたデザインとなるよう配慮すること。
- ④ 新安治川水門は、現水門のアーチ型水門と比較すると、景観性（見通し）が優れないことを踏まえ、遮蔽感を軽減するよう配慮すること。
- ⑤ 津波や高潮といった災害、水門の果たす役割や機能を伝える防災教育の場としての活用にも配慮すること。
- ⑥ 現水門のアーチ型形状を新水門本体で継承することは困難だが、新水門を含む周辺エリアにおいて、その存在感やイメージを継承できるよう配慮すること。

# 新安治川水門設計の今後の進め方（イメージ）について

新木津川水門での検討を基本に、「新安治川水門の景観設計において配慮すべき事項」をふまえ、詳細な景観検討を実施していく。

## ◆新木津川水門における検討結果

（基本設計時）



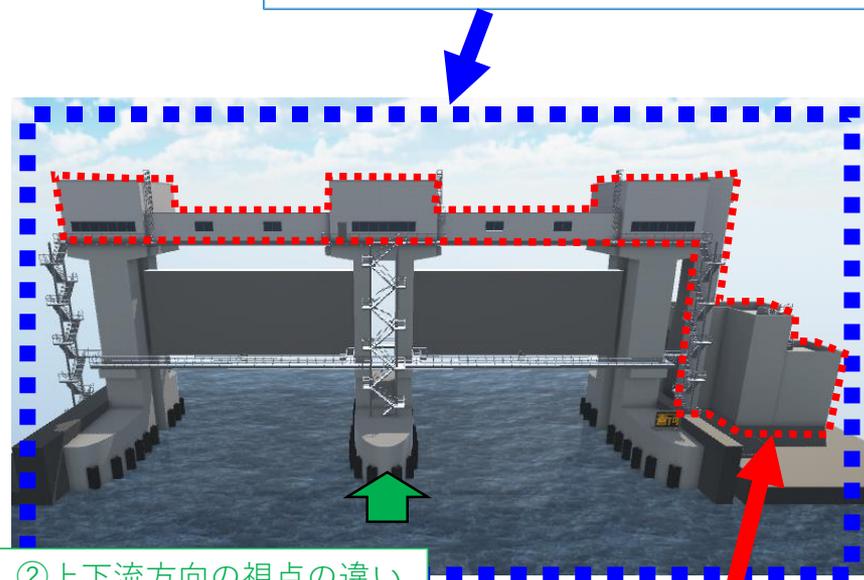
「ボリューム感の低減」や  
「景観デザインの工夫」を実施

（詳細設計時）



## ◆新安治川水門における検討イメージ

- ①水都大阪の玄関口やシンボル
- ③土木構造物としての安心感や力強さ
- ④遮蔽感の軽減



- ②上下流方向の視点の違い
- 昼と夜の景観の違い

- ⑤防災教育の場としての活用
- ⑥現水門のイメージ等の継承

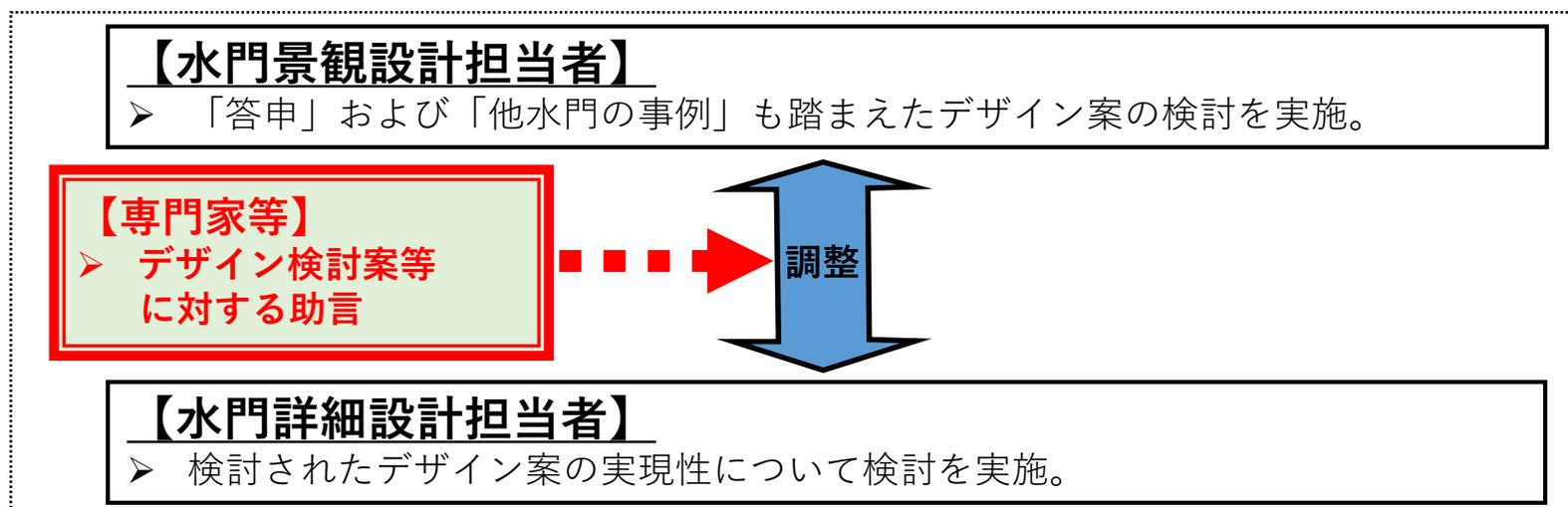
# 【参考】新安治川水門設計の今後の進め方

【答申】 「安治川水門の景観設計において配慮すべき事項について」



## ◆水門デザイン検討（STEP1）

デザイン調整ワーキング（仮称）の仕組み（案）



実現可能かつ答申を踏まえた水門デザインの決定



## ◆デザイン決定後に構造計算、数量計算等を実施（STEP2）

**【水門詳細設計担当者】**  
➤ 決定したデザインにより、構造計算や数量計算などを実施